



せいらん



JUL,2012

No.17

(医)社団法人
三国丘病院

巻頭言

本日（6月13日）『未成年の精神科受診者「15万人』という現実を前に』という題で、放送があります。趣旨は「子どもに広がる向精神薬の被害」に迫るということらしく、抗うつ薬、抗不安薬、睡眠薬などが重い自閉症やうつ病の症状などに苦しむ人々の効果的な治療薬として使用される一方で、副作用に悩んでいる子どももいる。背景には発達障害やうつ病などの子どもは早期に対応することで子どもの環境を改善したり、症状を早く回復できる。一方、必要な投薬が行われ副作用に苦しんでいる子どももいるということのようです。

放送も論文と一緒に仮説がますあって、それを、証明するような事實を積み上げるのだろうと思います。良心的であれば、両論を取り上げ、中立に立つべきだと思いますが、ブルムや世論を作り上げる意図のある放送が最近多いように感じます。たしか、10年以上前から発達障害を取り上げ、当時の専門家を登場させ、薬物療法についてもかたらせていたのも、同局であったような気がします。論文の場合には査読があり、専門家しか読まないのでしょうが、放送はどうなっているのでしょうか、番組がなくなるという前例は過去に



別の局であったように思います。もちろん、診断、検査も十分せず投薬し、その後の経過もきちんと観察していい医療機関があることも事実です。5年前に当法人が、クリニックを設立した経緯は、ある病院で、初診で投薬を受けた子どもの次の受診が1ヵ月後になっていたことを知ったことだったというのを思い出します。とだつたというのを思い出します。治療上、いろいろなものにバイアスがかかります。親、患者（子ども）、主治医、先生など、したがって、客観的に評価することはかなり難しいと思います。また、治療法や薬の研究や開発では、バイアスはかからないほうが良いのですが、実際の臨床場面では、結果がよいことが重視されるので、バイアスは、できるだけ利用することになります。薬の添付文書は、効能に比べて副作用の記載のほうが明らかに多いので、きちんと読めば、よほど客観的な人でない限りかなりのバイアスがかかりそうです。主治医はもちろん自分自身にバイアスがかかっていることは認識しなければなりません。

医療法人サヂカム会副理事長 奥野 正景（おくの まさかげ）



日本医療機能評価機構
病院機能評価認定病院

●病院理念● 「誠意ある明るく開かれたこころの医療」

●基本方針●

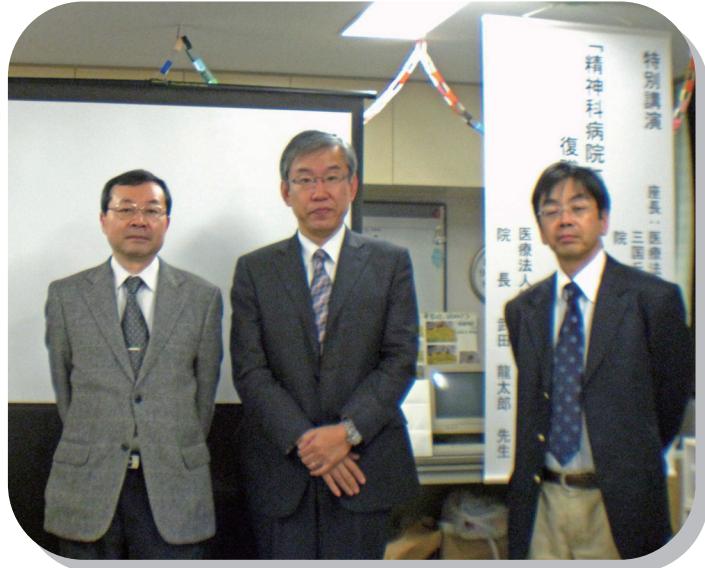
1. 患者様の人権を尊重した誠実な態度（患者中心、主体、人権、倫理）
2. 安全で安心できる医療（医療の質、安全、安心）
3. 研鑽に励み、質の高いチーム医療（信頼、倫理）
4. 説明と同意に基づく信頼される開放的な医療（自由、開示性、インフォームドコンセント）
5. 専門知識を活かした地域の精神保健福祉への貢献（地域社会、精神保健福祉）

院内講演会

復職支援 & 訪問看護

昨年12月15日、医療法人社団慶神会武田病院院長・武田龍太郎先生を遠く神奈川県より当院にお招きし、『精神科病院における復職支援デイケアの現状と課題』というタイトルでご講演いただきました（日本イーライリリー㈱主催）。武田病院の概要、復職という問題をめぐる精神科病院の動向に始まり、武田病院デイケアでの復職支援プログラムの具体的な取り組み、復職プロセスのポイントや問題点、今後の課題に至るまで、充実した内容でありながら、平易な語り口でご説明いただいた1時間半でした。当院のデイケアスタッフ、コミュニケーションカルスタッフは、ずいぶんと刺激を受けたようで、大好評でした。武田先生のお話に触発されたこともあります。三国丘病院デイケア「けやき」では、現在、リワーク・プログラムの開始を準備中です。

また本年5月1日には、国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科・小市理恵子先生をお招きし、『精神科訪問看護の現状と課題』『地域生活支援—訪問看護の役割および意義—』の2題をご



中央が武田先生。左が当法人理事長、右が副理事長

講演いただきました。小市先生の「精神科訪問看護には夢がある」の言葉をキーに、当院の訪問看護部門のスタッフは自らを鼓舞しております。

両先生とも誠にありがとうございました。今後とも三国丘病院は従来の治療だけでなく、復職支援、地域生活支援にも力を入れていきます。

前号でも紹介した、本院隣地に開設した「三国丘こころのケアセンター」。2階部分にデイケアを拡大移設し、3階部分では訪問看護部門のスタッフが詰めています。地域生活を支援する部門として、

より活発かつ広範囲に動けるよう、訪問用車両も新たに導入しました。

また、センター1階部分では、他の部屋と玄関もまったく別にして、心理カウンセリングを行なうルーム（保険診療外）も開設する予定です。

三国丘 こころの ケアセンター



●三国丘こころのケアセンター



●2階部分に拡大移設し
たデイケア。



●1階部分のカウンセリ
ング・ルーム。個別面
接室と、小規模グル
ープにも対応できる部屋
などを用意。



●訪問看護用車両と3階
訪問看護スタッフルーム。



「こどももうつになる」と言
うと、昔なら一笑に付されてい
ました。しかしここ十数年ほどで、

次第に認知されるようになってきました。最近数十年では、小児のうつ病の有病率は増加傾向にあり、平均発症年齢は低下してきているという報告があります。これは、単にうつ病への認識が高まることや診断基準が拡大されたということだけが反映されているのではないと思われます。

母親などの愛着対象から引き離された5歳未満のこどもは、しばしば悲嘆反応を示します。この悲嘆や絶望がここで言う「うつ」に当たるものかははっきりしませんが、おおよそ8歳ぐらいの年齢から、大人のうつと非常に似た症状を示すこどもが出てきます。つまり、興味や関心の低下、気力・活動性の減退、自己評価の低下、自責感・罪悪感、ボーっとしている、集中力の低下、イライラなど、また、自殺願望や睡眠や食欲、体重の変化などが見られるようになります。

こどもに特に出現しやすい症状は、イライラ感、身体不調の訴え、引きこもり（不登校）と言われています。言語能力が大人と比べて未熟であることを考えれば、抑うつ感をうまく言葉にできず、身体や行動で表現していると理解できるでしょう。憤怒とも言えるような、激しい癪癪や怒りを親にぶちまけるこどももいます。「うつとは熱意のない怒りである」という西洋の皮肉めいた言葉がありますが、そういうこどもを見ると、表面化されない怒りが内蔵されていたのかなあと妙

こどものこころ 第7回

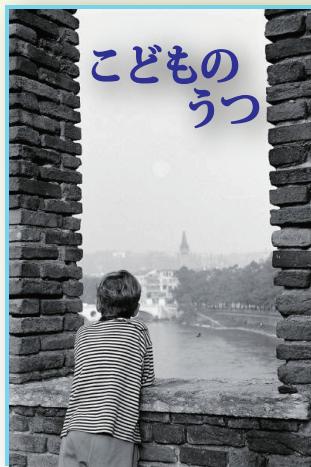
に頷いてしまいます。

治療としては、年齢やうつの程度にもよりますが、心理的サポート、休養やストレス軽減などの環境調整、薬物療法、家族アプローチ、学校との連携調整等が挙げられます。心理サポートでは、認知行動療法（CBT）と対人関係療法（IPT）が、うつ改善に効果があるものとして、近年関心が高まっています。特にCBTは、平成22年度改定から診療報酬に含まれるようになり、一般にも流布している感

があります。しかし、気をつけなければならぬのは、一定の効果が認められて注目されているからと言って、それは万能ではなく（実際、CBTの効果はプラセボ効果と同程度だという研究報告は多くあります）、また、一つのアプローチだけで改善するというものではないという点です。大人の場合と同じで、やはり薬物療法を基本として、環境調整、家族アプローチを組み合わせ、こどもの状態を見ながら、それらのバランスを図っていくことが大事と思われます。

思春期・青年期にうつ病を発症した人は、大人になってからもうつ病を再発する可能性が高く、青年期以前のうつ病は成人期のうつ病につながりにくいという報告があります。つまり、出来るだけ早期に発見し治療につなげることが再発予防にもつながると、こどものうつにも言えると思われます。周囲の人たちの責任は重大です。こどもから熱意なく怒られないように。

（心理室）



三国丘こころのクリニックでは、平成22年から、子どもの臨床をメインとした研究会を開催しています。参加者は、堺地区の医療、福祉、教育機関等に勤務されている精神科医師、臨床心理士の皆さん。施設、職種のそれぞれにより、業務内容や視点が異なり、幅広い意見や情報の交換・共有の場所であることが特色です。また、堺地区内の機関連携にも役立てればと考えています。

早いもので、今年で3年目に突入しました。今年度の第1回目は、三国丘こころのクリニック・

奥野正景院長による小講演でした。今後も定期的に続けていく予定です。



病院機能評価更新



当院は平成19年に日本医療機能評価機構病院機能評価の認定を受け、今年が更新の年でした。3月9日・10日の2日間にわたりて4名のサービスイヤーが来られ、訪問審査を受けました。いろいろな指摘、コメントをいただき、たいへんになりました。良い刺激を受けたためになり、良い刺激を受けたと思います。約3ヶ月後の6月15日、審査結果が届きました。今回は5年前とは違い、指摘事項や改善事項もなく、無事、更新認定を受けることができました。職員一同ホッとしましたが、これで終わりではないことを肝に銘じなければいけません。至らないところに気づき、改善を取り組み続けるという「言うは易し行なうは難し」に向き合っていくことが大事だと思ってい

外来案内



Information & Guidance

平成 24 年 6 月 1 日～(8 月 1 日からも変更があります)

	月	火	水	木	金	土
午 前	1 診 齊藤☆	岡田★	天富 (8/1～菅谷)	後藤	千頭☆	菅谷
午 後	2 診 楠部☆*	千頭☆	菅谷 * (8/1～齊藤)	齊藤☆	原口*	河口*
午 前	1 診 千頭☆	原口	菅谷 (8/1～天富)	原口☆	河口	齊藤☆
午 後	2 診 原口	河口☆	奥野☆	辻☆	—	河口☆

☆：予約診察。予約は外来看護窓口でお取り下さい。

*：薬のみ診察の方。1時間ほどで第1診察室に切り替わります。

(月) 午前第2診察室は1時間程度お薬の後、

予約診察に切り替わります。

△担当医が変更になることがあります。事前にお問い合わせください。

△児童精神科外来：

(月) 午前 第2診察室

(水) 午後 第2診察室

(土) 午後 第2診察室 すべて予約制

【診察時間】 (月)～(土) 午前 9:00～12:00(受付は 11:00 まで)

午後 2:00～5:00(受付は 3:30 まで)

【休診日】 日曜、祝日、年末年始(12/29 午後～1/3)、創立記念日(1/4)

Access & Map



病院案内

〒590-0027 大阪府堺市堺区榎元町 1 丁 5 番 1 号

TEL 072-233-1880

FAX 072-222-1709

URL <http://www.mikunihill-hp.or.jp/>

(新しく変わりました)

●南海高野線 堀東駅下車

東出口より、南東へ徒歩約 5 分。

●駐車スペースが非常に少ないため、

できるだけ電車等の公共交通機関をご利用ください。



■診療科目 精神科・心療内科・神経内科・児童精神科

■開設者 千頭孝史

■精神科病床 144 床

●昭和 36 年開設

●精神科病棟 15 対 1

●看護師比率 70% 以上

●看護補助加算 2

●完全院外調理

■併設施設・承認等

・薬剤管理指導施設

・精神科作業療法施設

・精神科デイケア(大規模)「けやき」

・付属診療所 三国丘こころのクリニック
〔院長 奥野正景〕併設：こどもショートケア「和一なごみ」

・共同生活援助・共同生活介護 グループホームえびす

・三国丘こころのケアセンター(地域生活支援部門 / 自費心理相談部門)

・臨床研修病院(協力型)

・清恵会医療専門学院准看護学科実習施設

・白鳳女子短期大学看護学専攻実習施設

・日本医療機能評価機構 病院機能評価認定病院

■地域精神保健活動

・阪奈中央リハビリテーション専門学校作業

療法実習病院

・堺市教育委員会嘱託医

・堺市就学指導委員会委員

・大阪府立堺支援学校校医

・大阪市立大学医学部非常勤講師

・堺市こどもセンター非常勤医師

・近畿中央胸部疾患センターリハビリテーション学院非常勤講師

・大阪市嘱託医

・堺市嘱託医

・大阪府堺地域産業保健センター メンタルヘルス相談

